

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 生涯発達心理学	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 鈴木 崇弘	当該科目に関する 実務経験 臨床心理士 学校カウンセラー
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 受精から死を迎えるまで、人間は発達し続けるという概念を持ち、各発達段階における心身の標準発達から発達課題とそれを乗り越えるための術について学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 「発達」が子どもだけのものではなく、生涯を通してあり続けるものであり、量的な発達と質的な発達の両方について実験や事例を用いながら検討していく。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1) 「生涯発達」の意味を理解し、自分の発達の経過を具体的に振り返ることができる。 2) 「発達」は上昇的变化と下降的变化として説明されることを理解し、自分が経験してきた変化について具体的にとらえることができる。 3) 発達をもたらす要因は何であるかについて理解し、教育や保育、あるいは育児において、具体的な働きかけのあり方について考えることができる。 4) 「発達は積み重ねである」ということについて、「発達課題」という視点から具体的に説明することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 発達とは 発達概念の変遷 2. 発達の指標とメカニズムの理解 発達段階と発達課題 (エリクソン、ハヴィガースト、フロイト等による) 発達の規定因について 3. 胎児～新生児～乳幼児期の発達の理解 母子関係、反射から随意運動へ 4. 乳幼児期の発達の理解 認知、言語の発達と第一反抗期へ 5. 児童期の発達の理解① 小1プロブレム、人間関係の推移 (家族から仲間へ) 6. 児童期の発達の理解② 道徳、社会性、向社会性の発達、ギャングエイジについて 7. 思春期の発達の理解 思春期とは何か、第二次性徴に連動した心の発達 8. 青年期の発達の理解① アイデンティティ各種に関する理解 自立と自律について 9. 青年期の発達の理解② 職業選択、自己意識について 10. 成人期の発達の理解① 「親密性対孤立」、職業生活へのコミットメントについて 11. 成人期の発達の理解② 「生殖性対停滞」、空の巣症候群等のミドルエイジの危機 12. 高齢期の発達の理解① 「統合対絶望」、サクセスフルエイジングについて 13. 高齢期の発達の理解② 認知症と家族の心理、ケアについて 14. 発達における幼稚園・保育所の役割の理解 声掛け、観察等のポイントについて 15. 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] ・無藤隆編 保育・教育ネオシリーズ [5] 発達の理解と保育の課題・塚野州一編みるよむ生涯発達心理学			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80% 以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末査査を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			